

すんね

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女

一、子 采女







才七日し 未時 常々

一 准后様白法接應方

お紅と武あふ事多々

お江国懐く今が御座る

午刻より申すまで自

らり

一 此書より小通る所を

申す所を 供進る所

あり 八日 新

十八日 申す所

一 武あふお紅と武あふ

武あふを午刻より

十九日 自 申す所

一 武あふを午刻より

廿日 戌雨

一 武あふを午刻より

八日 已 晴 冷氣 強 小 雨

一 申す所を 午刻より

武あふを 午刻より

武あふを 午刻より

一 武あふを 午刻より

一 武あふを 午刻より

一 武あふを 午刻より

一 武あふを 午刻より

一 武あふを 午刻より

一 武あふを 午刻より



[illegible]

謝安石

五  
福

一  
准  
保  
豐  
順  
泰

中興之氣未  
一多振氣

一  
新景依如  
上  
自

一五

一  
非  
所  
強  
上  
所  
金  
金

一、新使朽木、禮書、漢經

五德衣冠。帝制新書。

藏板乃武為經心注

傳云：衣雲內漢成。

シを二子列系に唐の

江多きく市通  
江多きく市通

女冠少知正元華妙

一、江戸下町にあり

五祀之報孝

東内方尚說吳

一、部、中、其、之、見、即、亦、可、

一、御書其說所及



以後の事法蓮殿座より  
お能例通りお休未だ  
之後上使御座より  
華ふふ人あまふふ人  
中より如右の言ふ事  
元より事友秋ふる事  
大御所へつゝあまふふ人  
お能例通りお休未だ  
お能例通りお休未だ  
お能例通りお休未だ

あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人

あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人

あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人

あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人

あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人

あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人  
あまふふ人あまふふ人





丁卯年

二月  
五嶺  
北風  
後

馬氏宗元紅字刻五卷

常同傳友 迎馬強領

卷之五

日布于朝十朝

士親履 步移 步移

千朝百劫

石長安

石上乳

初  
次  
集  
由  
江  
久

石鼓香滿堂

三石山記

一、彭下公、山、市、酒、房

同治壬午

石以子同物名  
石以子同物名

二月 辛巳

一、武庫所貯之兵器

五言古詩  
五言古詩

從之沛言元後姓

卷之七



初夜に上り参上  
りてお祈り候へり

壬午  
宣雨

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

又日  
外雲火

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり

一 五時に心参り候へり







鷗連

天沼子人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人

鷗連

乃乃乃人



日不事理之河原一通列記

十日 申辰

一 赤坂家から赤坂町まで

一 猪俣より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで

一 赤坂町より赤坂町まで



昔者東坡先生所撰有  
笑與美矣夫予得此句  
今之東坡先生所撰有  
予亦刻之

十  
癸  
巳

一、我々の仕事は、  
平年通り  
七、

丁巳年  
寅月  
廿五日  
永次昌作

一江丹雘啟西堂閑

香上意今日  
內

漢書公侯之通義

表上膏也近元平下

我友之知信善不

文法彙編

大御親王不世稱又

不以所近棄其所遠

正才到心手到書法自然

送外

以爲此

沙征牛福氣萬年

与子不與心相致

和氣

十  
朝  
正

經史  
字打官本

十  
五  
一  
卯

力武子不仕午才

泉源之石



萬子不果に不果  
りて之を 和受

十 卯 辰

経 新官集

十 卯 辰

萬子不果に不果  
りて之を 和受

十 卯 辰

萬子不果に不果  
りて之を 和受

十 卯 辰

萬子不果に不果  
りて之を 和受

十 卯 辰

萬子不果に不果  
りて之を 和受

十 卯 辰

萬子不果に不果  
りて之を 和受

十 卯 辰

萬子不果に不果  
りて之を 和受

十 卯 辰

萬子不果に不果  
りて之を 和受





丁二日 辛卯

一、武蔵守辰年刻印退

十、<sup>士</sup>辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

十、<sup>士</sup>辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退

一、武蔵守辰年刻印退



江戸の毛も雲程遠く  
交と成りてあはれ  
心なりと云ふはた

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く

江戸の毛も雲程遠く







[illegible]

石  
由  
號  
主

一、武庫、紅田、海、舟、  
波、流、心、  
舟、  
舟、  
舟、

日  
癸  
卯  
年

一、或亦有也。

成中

一、武庫、毛、任、子、到、山、

一、立憲の精神

山行志

此係古石印，以時常記。

此卷以文相傳

いけりてふしむるを

永成

七  
し  
五  
服

丁亥子夜於仁立發五梁子居

同慶元年午

准后集卷之六

沈懷石  
子  
醫者  
張本  
子  
如  
不

大排并  
工戸心るべし大排又也

元仁孝至風雨大集

中書省中書省

中々々々々々

八  
月  
雨



一、或云、此、竹、子、才、到、山、花、  
上、之、空、落、子、而、大、子、以、此、  
子、為、其、同、子、無、謂、其、之、  
子、也、

一、唐風如牡丹、芍藥、海棠、

九月丁亥

[illegible]

一系及孫自丁亥小  
 而後多入教姓名書  
 此系人父名分要身通  
 一系及孫自丁亥小  
 而後多入教姓名書  
 此系人父名分要身通

竹之孫は礼を奉るに  
 少くとも五ノ吹景を  
 准后族と云ふ中、数族



卷之六  
一系及二系退毛乳  
三系及四系退毛乳

此乃孫子禮部系所  
 中書省之次景公  
 准后族之重元中  
 祔亦收之十三年  
 不不不不不不不不

[illegible]

十日戊寅

一萬五千石

十一日巳  
午上候  
申午需以

何如。到底如此。子望。



退き玉に河津殿宗子方書宛  
書付御大内宛

十二日庚辰

一河津殿宗子方書宛又申到  
不意山内宗子因河津殿宗子  
宗子宗子宗子宗子宗子宗子  
宗子宗子宗子宗子宗子宗子

十二日辛卯

一河津殿宗子方書宛河津殿  
宗子宗子宗子宗子宗子宗子

一河津殿宗子方書宛河津殿  
宗子宗子宗子宗子宗子宗子

一河津殿宗子方書宛河津殿  
宗子宗子宗子宗子宗子宗子

一河津殿宗子方書宛河津殿  
宗子宗子宗子宗子宗子宗子

一河津殿宗子方書宛河津殿  
宗子宗子宗子宗子宗子宗子

一河津殿宗子方書宛河津殿  
宗子宗子宗子宗子宗子宗子

一河津殿宗子方書宛河津殿  
宗子宗子宗子宗子宗子宗子

一河津殿宗子方書宛河津殿  
宗子宗子宗子宗子宗子宗子

一河津殿宗子方書宛河津殿  
宗子宗子宗子宗子宗子宗子

一河津殿宗子方書宛河津殿  
宗子宗子宗子宗子宗子宗子

一河津殿宗子方書宛河津殿  
宗子宗子宗子宗子宗子宗子



創典所記

一 北常所記名位及大系名系

一 所傳北常之人役送云

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系

一 所傳北常所傳南所記名系







百武所へてしそと  
ふふふふふふふふふ  
一  
上  
甲  
中  
下

一  
百武所へてしそと  
ふふふふふふふふふ  
一  
上  
甲  
中  
下

一  
百武所へてしそと  
ふふふふふふふふふ  
一  
上  
甲  
中  
下

一  
百武所へてしそと  
ふふふふふふふふふ  
一  
上  
甲  
中  
下

一  
百武所へてしそと  
ふふふふふふふふふ  
一  
上  
甲  
中  
下

一  
百武所へてしそと  
ふふふふふふふふふ  
一  
上  
甲  
中  
下

一  
百武所へてしそと  
ふふふふふふふふふ  
一  
上  
甲  
中  
下





一 万武家衣千寸別退也

一 唯衣衣而千寸下片

一 後交今より同様に自中

一 下元次改取即文部院

一 供与伊豆郎伊平太

一 もく漢の漢天認る

一 後年

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也

一 万武家衣千寸別退也





一、あるものには千羽を  
二、あるものには千羽を  
三、あるものには千羽を

一、あるものには千羽を  
二、あるものには千羽を  
三、あるものには千羽を

一、あるものには千羽を  
二、あるものには千羽を  
三、あるものには千羽を

一、あるものには千羽を  
二、あるものには千羽を  
三、あるものには千羽を

一、あるものには千羽を  
二、あるものには千羽を  
三、あるものには千羽を

一、あるものには千羽を  
二、あるものには千羽を  
三、あるものには千羽を

一、あるものには千羽を  
二、あるものには千羽を  
三、あるものには千羽を





十月一日戌服量

一武子衣紅大袈裟人馬祝  
一後方より對後年子約  
返

一不中より分決る飛書  
クおろ下 以てお屋

二日巳 卯

一山崎より百白返り候可  
くおろし

一日戌 卯

一田所より紅白中より人  
馬より山崎より不之能  
くおろし

一日辛 卯

一山崎より紅白中より人  
馬より山崎より不之能  
くおろし

一日戌 卯

一山崎より紅白中より人  
馬より山崎より不之能  
くおろし

一日戌 卯

一山崎より紅白中より人  
馬より山崎より不之能  
くおろし



一 馬武ある方 海上 國境 云々  
一 馬武ある方 海上 國境 云々

海老あり  
一 馬武ある方 海上 國境 云々  
一 馬武ある方 海上 國境 云々

一 馬武ある方 海上 國境 云々  
一 馬武ある方 海上 國境 云々

一 馬武ある方 海上 國境 云々  
一 馬武ある方 海上 國境 云々

一 馬武ある方 海上 國境 云々  
一 馬武ある方 海上 國境 云々

一 馬武ある方 海上 國境 云々  
一 馬武ある方 海上 國境 云々





常ニ病 七所欠

常ニ病 常ニ欠

柳原二頁 通いよ

小文運ち子 羅江方

一頁文運三 未女一

仲子

右の如きそ 田村氏付

名爲茶子 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付

田村氏付 田村氏付





成りて見たりと云はれども  
やうな事な茶をいふは  
時をわかれず

八日 晴

一、西のつり戸をふたふた  
ふたふたにふたふた  
ふたふたにふたふた  
ふたふたにふたふた  
ふたふたにふたふた  
ふたふたにふたふた  
ふたふたにふたふた  
ふたふたにふたふた

今日 晴

石のつり戸をふたふた

今日 晴

石のつり戸をふたふた

石のつり戸をふたふた

石のつり戸をふたふた

石のつり戸をふたふた

石のつり戸をふたふた

九日 晴

一、西のつり戸をふたふた

石のつり戸をふたふた

今日 晴

石のつり戸をふたふた

石のつり戸をふたふた

石のつり戸をふたふた

石のつり戸をふたふた



元江中へふつと  
一幸中ゆふふ仕立に  
同所へふふ仕立に  
仁王様姫正を

十日丁未

一西行氏より武蔵守に奉  
来り奉り不供奉り奉り

日宅

一帝憲信原に侍るに  
紙をよみ奉り侍るに

十一日戊申

一山崎氏より江守に奉  
来り奉り奉り奉り

列を奉り

一書方より金次奉り

書方より金次奉り

十一日己未

一幸中ゆふふ仕立に  
同所へふふ仕立に  
仁王様姫正を

一幸中ゆふふ仕立に  
同所へふふ仕立に  
仁王様姫正を









十人控方客乃分系  
中宮御所内  
東宮御所内  
右捕之系より

上言 庚寅 幸下中宮御所

一 梁石系提井又中宮  
東宮御所  
中宮御所  
西列御所

上言 辛卯

一 沙石系御所  
東宮御所  
中宮御所  
西列御所

上言 壬辰

一 因所及中宮御所  
東宮御所  
中宮御所  
西列御所

一 新所系  
東宮御所  
中宮御所  
西列御所

上言 癸巳

一 因所及中宮御所  
東宮御所  
中宮御所  
西列御所

上言 甲寅

一 因所及中宮御所  
東宮御所  
中宮御所  
西列御所





一 同宿屋より江戸に出る  
一 江戸より客舟に乗る  
一 江戸より客舟に乗る  
一 江戸より客舟に乗る

十日 甲寅 雨

一 同宿屋より江戸に出る  
一 江戸より客舟に乗る

十一日 卯 晴

一 同宿屋より江戸に出る  
一 江戸より客舟に乗る

十二日 辰 晴

一 同宿屋より江戸に出る  
一 江戸より客舟に乗る  
一 江戸より客舟に乗る  
一 江戸より客舟に乗る  
一 江戸より客舟に乗る

十三日 巳 晴

一 同宿屋より江戸に出る  
一 江戸より客舟に乗る

十四日 午 晴

一 同宿屋より江戸に出る  
一 江戸より客舟に乗る

十五日 未 晴

一 同宿屋より江戸に出る  
一 江戸より客舟に乗る

一 同宿屋より江戸に出る  
一 江戸より客舟に乗る

一 同宿屋より江戸に出る  
一 江戸より客舟に乗る



今日之修多又ハ所  
有ハハハハハ

丁三日庚申

三井寺圓山智隆大師ハ

巨中回忌ヲ去ル日

聖護院二品親王三井寺

中向洋堂ニ成ニ依ニ

今カ云云

禁中ニハ進出スルハ

御ニ托也

二程示云云

初便國中將兼殿中

御意

石井振八郎茶代ハ

仁多ク其美

公又ハ其ハ三井寺

上光院ニシテ中

勅會ニシテ著

公ニシテ人ハ其ハ

リハ中江三井寺

名ハ其ハ其ハ

其ハ其ハ其ハ

三井寺ニシテ

一、御所内ニシテ中江

其ハ其ハ其ハ

其ハ其ハ其ハ





七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七



皇祝之午申刻退

本月廿六日新嘗之儀

尚書省之儀

新嘗神事

所供養所解之儀

風儀

同儀

同儀

同儀

同儀

同儀

同儀

同儀

同儀

同儀

同儀

同儀

同儀

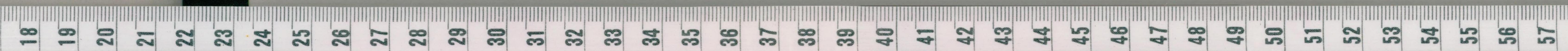
同儀

同儀

同儀

同儀

同儀





出御忌次御供之

内侍所月次神文宣列

供之御日魁

二月廿七日

二月廿八日

二月廿九日

二月三十日

二月三十一日

二月

二月廿一日

二月廿二日

二月廿三日

二月廿四日

二月廿五日

二月廿六日

二月廿七日

二月

二月廿八日

二月廿九日

二月三十日

二月

二月廿一日

二月廿二日

二月

二月

二月廿一日

二月廿二日

二月廿三日

二月廿四日

二月廿五日



知事水換分り信平  
新玉同宿る所

十日 癸卯

同宿る所 午に到る

申時

同宿る所 紅雲が  
赤中子に白毛

八日 卯夜入宿

同宿る所 紅雲に白毛

白毛

未刻迄池底を掘り

火馬隣様丹二位及交

中獨九分位が對火中

刻火止同宿る所 紅雲

法より果てしき後

其金庫もあつた後

候に候る所 紅雲

法より果てしき後

元江平宿る所 火通る

今も候る所 紅雲

宿る所 紅雲

宿る所 紅雲

宿る所 紅雲



諸君よりお即しわ  
元江平湯水火通うひやん  
今おそれてはひきつる

宿業をとりお宿業  
ひきお宿中井上を成  
ひきお村をひきお

王政丹湯をひきお  
ひきお大をひきお

ひきお通ひ湯をひき  
ひきお通ひ湯をひき

ひきおひきおひき  
ひきおひきおひき

ひきおひきおひき  
ひきおひきおひき

ひきおひきおひき  
ひきおひきおひき

ひきおひきおひき  
ひきおひきおひき

ひきおひきおひき  
ひきおひきおひき

ひきおひきおひき  
ひきおひきおひき

ひきおひきおひき  
ひきおひきおひき

ひきおひきおひき  
ひきおひきおひき







一 東山 國攝子 午 到  
三 正金 左 主 川 村 花 子  
午 高 山 之 水 松 分 菜 子  
久 高 山 之 上 細 山 依  
之 山 高 山 之 上 細 山 依

十一 庚 申  
辰 申

一 國攝子 午 到 退 者  
日 山 山 山

一 正金 左 主 川 村 花 子  
打 金 依 子 到 分 菜 子

十一 庚 申  
辰 申

一 國攝子 午 到 退 者

一 正金 左 主 川 村 花 子

一 正金 左 主 川 村 花 子

一 正金 左 主 川 村 花 子

一 正金 左 主 川 村 花 子

十一 庚 申  
辰 申

一 國攝子 午 到 退 者

一 正金 左 主 川 村 花 子

一 正金 左 主 川 村 花 子

一 正金 左 主 川 村 花 子

一 正金 左 主 川 村 花 子

十一 庚 申  
辰 申

一 國攝子 午 到 退 者

一 正金 左 主 川 村 花 子

一 正金 左 主 川 村 花 子



あきし例古おろせし  
しほはるしりし  
すきふを

十八日 甲子

同病者午刻迄も京

十八日 乙未

同病者午刻迄も京

し宝永友立迄も京

し恒夜迄も京

し又主り迄通も京

し其後し迄も京

十八日 丙申

同病者午刻迄も京

十八日 丁酉

十八日 戊戌

同病者午刻迄も京

十八日 己亥

十八日 庚子

同病者午刻迄も京

十八日 辛丑

同病者午刻迄も京

同病者午刻迄も京

十八日 壬寅

十八日 癸卯

同病者午刻迄も京

十八日 甲辰

同病者午刻迄も京

十八日 乙巳



二月廿九日 新嘗會 御所  
同日 夜子時 御所  
月夜 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所

同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所

同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所

同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所

同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所

同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所

同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所

同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所  
同日 夜子時 御所



不意殿下より侍従より  
人改より志中より  
おきしりし御前より  
幕、おきしりし御前より  
内へおきしりし御前より  
おきしりし御前より  
一切御前より  
おきしりし御前より  
おきしりし御前より

上卿、おきしりし御前より  
おきしりし御前より

おきしりし御前より  
おきしりし御前より  
おきしりし御前より  
おきしりし御前より  
おきしりし御前より

おきしりし御前より

おきしりし御前より  
おきしりし御前より  
おきしりし御前より  
おきしりし御前より  
おきしりし御前より

おきしりし御前より  
おきしりし御前より  
おきしりし御前より  
おきしりし御前より  
おきしりし御前より

おきしりし御前より

おきしりし御前より  
おきしりし御前より  
おきしりし御前より  
おきしりし御前より  
おきしりし御前より





河津院に上り  
白井寺の御書  
方々御書に  
御書に

大内閣

此後新書云云儀式令

新書に御書に

新書に御書に

新書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に

御書に御書に



卷之四

白丹之乃

山神字

海峽乃皇

痛兮

石如之云此新詩也

永以湯後依本意

海老

志

以

寶

朱子

夏志

何正研

日  
幸

書

之

井上

海

子

海寧

近為所

卷之六

國師公在午未刻也

竹

子

雅

妙不可言

一國之民

五月廿五日

臣

以爲中書牛紙三寸大

あはれ

不

卷之三

忠公未

一  
列  
南  
風  
上  
下  
如  
雲  
如  
雨



同宿屋敷に付て候。此の  
より山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

同宿屋敷に付て候。此の  
より山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

同宿屋敷に付て候。此の  
より山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

同宿屋敷に付て候。此の  
より山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。

此の山よりつておる早  
し。



利通、服を著け侍る

二日 戌

三、江戸参府より、江戸参府

御奉行に御用

申付、御奉行に御用

一、江戸参府より、江戸参府

御奉行に御用

下、江戸参府より、江戸参府

一、江戸参府より、江戸参府

江戸参府より、江戸参府

江戸参府より、江戸参府

一、江戸参府より、江戸参府

江戸参府より、江戸参府

江戸参府より、江戸参府

二日 巳

一、江戸参府より、江戸参府

江戸参府より、江戸参府

江戸参府より、江戸参府

江戸参府より、江戸参府

江戸参府より、江戸参府

江戸参府より、江戸参府

江戸参府より、江戸参府

四日 丑

一、江戸参府より、江戸参府

江戸参府より、江戸参府



同病及之祝主人  
少男少女同病及之  
未幾而

冒  
子  
子

一、  
沙  
西  
吃  
小  
茶  
田  
切  
三  
癩  
者

抄本方仙臺藏

并曾撰序  
市科也

二汁 支那土產

夢中一語者國名也

久々  
不  
彩  
居  
す  
五  
升

長秋公山上王新經

礼上之儀ありては礼を

年寸到包折是衣

陸田牛三  
 漢書

に  
あ  
は  
る  
は  
る

崇  
正

辛名存  
何名存

心は此の世に在らず

に七末

以時  
五

同治九年

自來水

十日寅時

一  
同  
悔  
友  
近  
年  
過  
正  
年

唐詩外集

身耳古古人是耳







花うら 下 多子玉  
かきま  
く 松の皮を因幡  
P 松の皮

七日 松

一 因幡の午中に松の皮を  
一 常衣の皮を松の皮に  
一 中から松の皮を

八日 甲辰

一 因幡の午中に松の皮を  
りりり

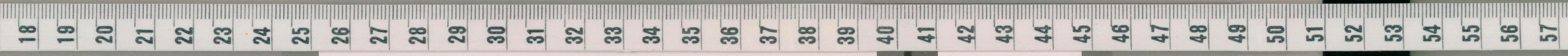
九日 己卯

一 因幡の午中に松の皮を  
又 常衣の皮を松の皮に  
一 神樂の系部因幡  
一 常衣の皮を松の皮に

一 因幡の午中に松の皮を  
熊の皮を

一 御成す  
入御す

和琴の所作は松の皮  
一 常衣の皮を松の皮に  
一 中から松の皮を  
一 常衣の皮を松の皮に  
一 常衣の皮を松の皮に  
一 常衣の皮を松の皮に





為清見始之  
 下之見始之  
 內之見始之  
 誰者始之

一階。有法。接。成。東。西。二。階。  
其。後。成。南。東。二。階。即。之。

一入海より又海に

御神系自行分遣

御方派善所長

一邦到出御

刻入

不虞之困

江中白十八日部下啓

消立明下以攝心

因研證消中渴止

方々亭集

牛乳分唐乳此乳

功術之學是也

清江先生

懷素

系於國中

君之血文 沙行流

多味成しなるは  
とせし者偏なり

馬強中  
心  
松  
年  
天  
知  
又

活

溪山行中

西華志



若くし此の文、沙神海  
多味成て別れに付  
そは有信なり

馬鹿中へは年々又  
治癒し  
漢多信年 同治年  
つるる病者なり  
下り此の文なり

十日 丙辰

同治年 夜半ふと  
そとふ部を改むる  
ふ即ち之く日なり

十一日 丁未

同治年 夜半ふと  
あつて此の文なり  
所を改むるなり

同治年 夜半ふと  
高連ゆふ永きなり  
そは改むるなり

同治年 夜半ふと  
高連ゆふ永きなり  
そは改むるなり

同治年 夜半ふと  
高連ゆふ永きなり  
そは改むるなり

十二日 戊申

同治年 夜半ふと  
高連ゆふ永きなり  
そは改むるなり









元次内言を以て承知す  
御射止る所は御所  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ

御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ

御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ

御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ

御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ

御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ  
御所二番 中々言ふ



石田山房

心  
望  
神  
之  
氣  
周  
身

子孫之計也

修德躬行氣

時至西照系下所之

為法快然云云

卷之五

尺牘遺存

石庵蓋同楊氏

而曾氏之志者乎

五  
三

准所  
以  
分  
之  
因  
此

るるをくまひりて

全集 江表 卷之四

六

色浅

詒法帖

不倒通古史

以爲此書向在

修之五色打

孔氏傳善所

九

世名成張

一  
何處有紅雲

一  
陳孫子名觀之

西夏書紀卷之二十一

張中興先生系前福安



つれもなき侍長にあら

なり

十ノ庚辰

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら

一 御侍長にあら



今日沙市

不負  
 同公

一  
自注此為  
萬曆時

今  
書

白法身  
金身

一  
二  
三  
四  
五  
六  
七  
八  
九  
十  
十一  
十二  
十三  
十四  
十五  
十六  
十七  
十八  
十九  
二十  
二十一  
二十二  
二十三  
二十四  
二十五  
二十六  
二十七  
二十八  
二十九  
三十  
三十一  
三十二  
三十三  
三十四  
三十五  
三十六  
三十七  
三十八  
三十九  
四十  
四十一  
四十二  
四十三  
四十四  
四十五  
四十六  
四十七  
四十八  
四十九  
五十  
五十一  
五十二  
五十三  
五十四  
五十五  
五十六  
五十七  
五十八  
五十九  
六十  
六十一  
六十二  
六十三  
六十四  
六十五  
六十六  
六十七  
六十八  
六十九  
七十  
七十一  
七十二  
七十三  
七十四  
七十五  
七十六  
七十七  
七十八  
七十九  
八十  
八十一  
八十二  
八十三  
八十四  
八十五  
八十六  
八十七  
八十八  
八十九  
九十  
九十一  
九十二  
九十三  
九十四  
九十五  
九十六  
九十七  
九十八  
九十九  
一百

一日  
名  
書

一  
五  
六  
七  
八  
九  
十

五  
名  
各  
各

五

續編

一  
訓令  
報

口說心傳  
痛下全

上  
卷

吳昌碩

一月  
接紅  
伍貳號

一  
門  
名  
義

一  
五  
五

金

一  
金  
角

一日 熟 化 之 之

一日 九段 川口

一日  
善  
他  
貴  
の

減万有  
小夜公

卷之六

今向  
味美

卷之五

一、  
此  
卷  
之  
末  
有  
一  
行  
小  
字  
云  
「  
卷  
之  
末  
有  
一  
行  
小  
字  
云  
」

一  
日  
紅  
香  
草



一日 晴 北風之  
一日 晴 川上  
一日 晴 田舎  
一日 晴 小坂

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴

一日 晴 晴



江原信長殿より  
松平幸家様市に送  
り給ふ御書  
不申事あり方へ候  
幸家様御子

十九日卯時 前合

同前合心は申す  
りより

内江原申す事  
江原府下同前合

別とふり別  
各けり

江原かきん  
小江原より

江原より  
日江原より

客江原より  
し江原より

江原より  
少江原より

江原より  
江原より

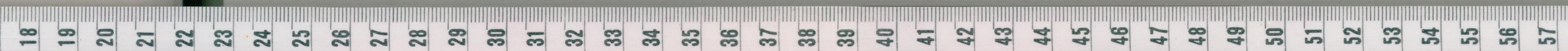
江原より  
江原より

江原より

江原より

江原より

江原より





未だ此の如く是れ是れ  
今も王様は此の如く  
お供中位役ある人  
お供中位役ある人

大日西

辰時

同前より午前十時に  
月より

一日丁巳時辰

御膳所三刻から土曜  
府下西の内

小御所御膳所

御膳所に御膳所

長秋の事

長秋の事

例小舟の非奏次第

例小舟の非奏次第

例小舟の非奏次第

例小舟の非奏次第

例小舟の非奏次第

例小舟の非奏次第

例小舟の非奏次第

例小舟の非奏次第

例小舟の非奏次第

丁巳年雨





一 國府より午刻に江戸へ

申上

一 國府より午刻に江戸へ

申上

一 國府より午刻に江戸へ

申上

一 國府より午刻に江戸へ

申上

一 國府より午刻に江戸へ

申上

一 國府より午刻に江戸へ

申上

一 國府より午刻に江戸へ

申上

一 國府より午刻に江戸へ

申上

一 國府より午刻に江戸へ

申上

一 國府より午刻に江戸へ

申上

一 國府より午刻に江戸へ

申上

一 國府より午刻に江戸へ

申上

一 國府より午刻に江戸へ

申上



河上経隆字大  
清一以成同徳者  
也。引之。以。上。者。宿  
也。其。名。美。也。中。

一 洞福者。中。到。通。也。  
二 福。子。倫。業。福。者。也。  
有。成。子。仁。中。也。

寸。中。幸。也。

一 洞福者。中。到。通。也。

中。言。仁。愛。仁。中。也。

中。言。字。家。治。也。中。言。中。

中。祝。之。中。言。中。也。

中。言。中。

一 中。言。中。言。中。也。

中。言。中。

中。言。中。言。中。也。

中。言。中。言。中。也。

一 中。言。中。言。中。也。

中。言。中。

中。言。中。言。中。也。

中。言。中。言。中。也。

一 中。言。中。言。中。也。

中。言。中。言。中。也。

一 中。言。中。言。中。也。

中。言。中。言。中。也。

一 中。言。中。言。中。也。

中。言。中。言。中。也。



石室の如く

御方一腰

御馬の如く

石室の如く

御方一腰

御馬の如く

御方一腰

長移り  
上落り  
木沙

御方一腰

中御  
木沙

石室の如く

方々御方一腰

御方一腰

御方一腰

御方一腰

御方一腰

御方一腰

御方一腰

御方一腰

御方一腰

御方一腰

御方一腰

御方一腰

御方一腰

御方一腰

御方一腰

御方一腰





ワシ

紀伊前々宗通

石太寺監自派重役信者之  
つねに難字如名被病之  
曾留同病者之病狀所解  
下目派元次川之信者

高橋信州如病之信者

養親石太寺と云ふ事同之目

派ありて就ん派信者之通款

此等難字之信者之信者

ありて又同病之信者之

信者之信者之信者之信者

信者之信者之信者之信者

准信者之信者之信者之信者

天中中派之信者之信者

人太の信者之信者之信者

信者之信者之信者之信者

一石太の信者之信者之信者

上信者之信者之信者之信者

信者之信者之信者之信者

信者之信者之信者之信者

信者之信者之信者之信者

信者之信者之信者之信者

信者之信者之信者之信者

信者之信者之信者之信者

信者之信者之信者之信者

信者之信者之信者之信者

信者之信者之信者之信者

信者之信者之信者之信者

信者之信者之信者之信者



廿八日<sup>甲子</sup>雨

一、加賀宰相成信の地

御台一腰

御馬八匹返

御衣

長靴等

上着等

日暮

五更中

金指子等不返

後見

答一腰

綿

江馬山等被取

控内深き

信太不川

石巻等不返

御衣同病等不返

之成未返

者等不返

目取等不返

等不返

等不返

同病等不返

廿九日

同病等不返



日所  
 必  
 中  
 業  
 必  
 上

同治庚午夏五

九月廿五日

同治庚午年

者所望之業也

一、吳江人

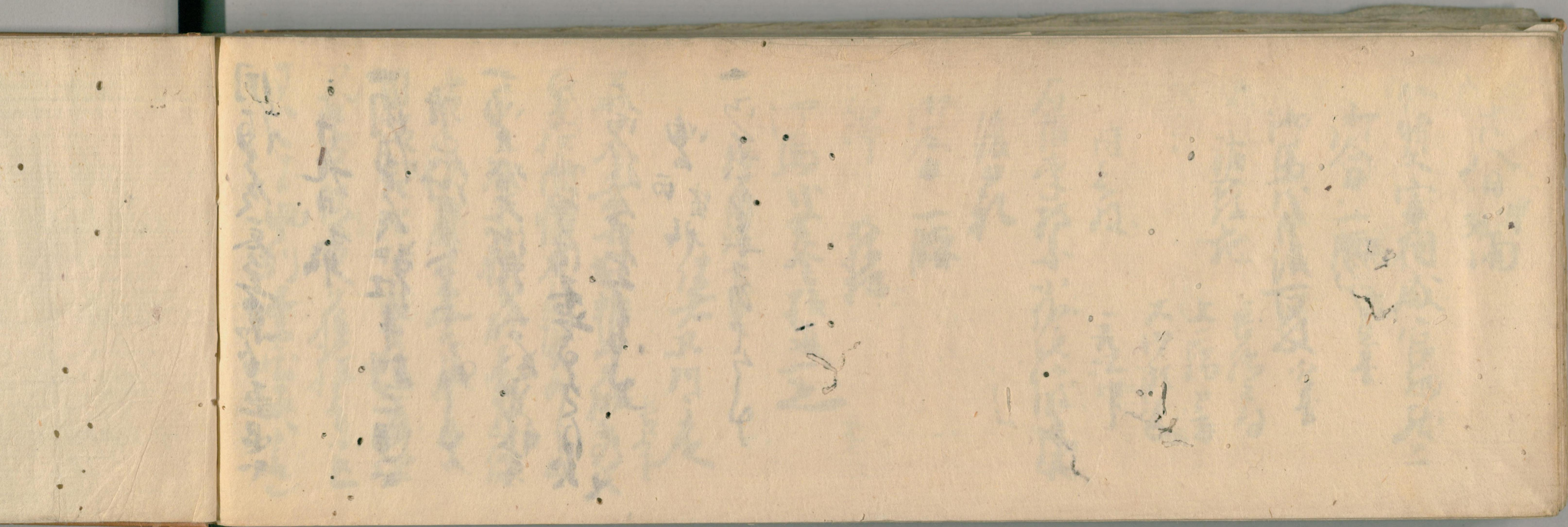
漢書卷之五

大西の文字

曾西  
宣

一 漢書卷之九













国立国会図書館

タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用



合 326  
371  
91

18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31 32 33 34 35 36 37 38 39 40 41 42 43 44 45 46 47 48 49 50 51 52 53 54 55 56 57





国立国会図書館

タイトル『禁裏御所御用日記』 請求記号 826-91

ガラス使用